

(2) 市内小学校において児童・生徒へ向けた出前講座の企画・開催

1) 目的

普天間飛行場跡地利用について、これまでの取組み内容を紹介し児童・生徒に返還後のまちづくりについて考えてもらう機会を促すことを目的として出前講座を企画・開催した。

2) 講座の主なポイント

- ① 宜野湾市の歴史や文化資源、および普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組内容をまとめたPVを活用し、学ぶ機会を設けることで、跡地利用に関する周知と理解を深めてもらう。
- ② 将来のまちづくりの中心的役割を担うと考えられる市内の児童・生徒に普天間飛行場返還後のまちづくりについて興味関心を持ってもらうため、各自の「将来の夢と宜野湾市のみらいのまち」を視点として、普天間飛行場をより自分事として認識し共に考える機会とする。
- ③ 各講座実施前に、各学校担当教諭と講座の目的や関連資料・教材の調整のほか、各学年の該当科目（社会科等）における学習目標やねらいについてヒアリングし、使用する資料の内容が学習目標等と関連付けられるよう考慮する。
- ④ 開催先の各学校・各クラスへ、主担当、およびサブ担当の2名を配置し、主担当は司会兼説明、サブ担当は記録をとる等役割分担により全体のスムーズな進行に努める。
- ⑤ 各ワークでは、児童・生徒からより多くの意見等を引き出せるよう、各グループを周り意見出しのサポートに努める。

3) 開催場所・スケジュール

回数	実施日	時間	場所	学年	人数(名)
第1回	令和7年 9月12日 (金)	9:25-11:05 2・3校時 (90分)	大謝名小学校	3年生 全3クラス	計89名 3-1: 30名 3-2: 28名 3-3: 31名
第2回	令和7年 11月14日 (金)	9:30-11:10 2・3校時 (90分)	志真志小学校	6年生 全4クラス	計126名 6-1: 32名 6-2: 29名 6-3: 32名 6-4: 33名

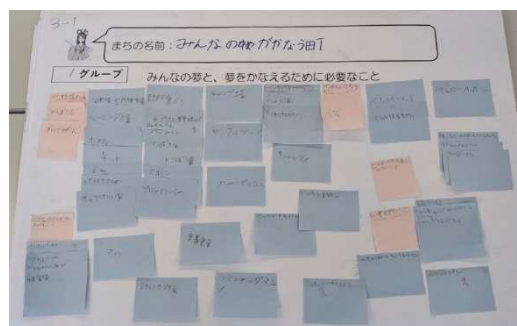
4) 大謝名小学校講座内容と結果

①大謝名小学校講座実施概要

実施日	時間	場所	学年	人数(名)
令和7年 9月12日(金)	9:25-11:05 2・3校時 (90分)	大謝名小学校	3年生 全3クラス	計89名 3-1:30名 3-2:28名 3-3:31名

②大謝名小学校講座プログラム

時間	内容
2校時 (9:25-10:10)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりワークショップの主旨説明 ・プロモーション動画鑑賞 ・3択ミニクイズ ・未来の宜野湾市の作成 グループに分かれて「将来の自分の夢」をかなえる未来の宜野湾市について各自で考える
3校時 (10:20-11:05)	<ul style="list-style-type: none"> ・未来の宜野湾市の作成 グループみんなの夢について話しながら、グループで「まちの名前」を考える ・グループ発表(各グループ3分×3グループ程度) ・アンケート記入





ワークショップの様子とグループワーク結果(抜粋)

③ワークのプロセス

<説明資料：ワーク箇所の抜粋>

Let's imagine!
みんなのしょうらいの夢と、
その夢をかなえるために
必要なことはなに？




15


- ・「普天間飛行場が返還された後のまちはどうなってほしいか」を、具体的にイメージできるよう、「自分の将来の夢」という視点から考え、表現してもらうことを目的とした。

ワーク：なにをする？

- ① 自分の「しょうらいの夢」と、「その夢をかなえるために必要なこと」を、絵やことばでかく
- ② 一人ひとりの夢をグループの紙にはる
- ③ どんな夢がかなう宜野湾市になるのか、グループでせつめいをかながえる
- ④ グループで「まちの名前」を決めて紙にかく
- ⑤ みんなに発表する




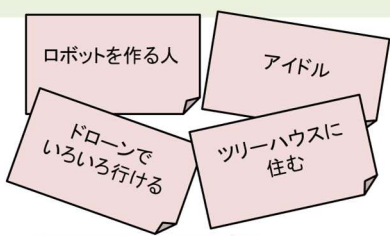
きみはどんな夢があるの？
その夢なら、外に〇〇がないとね。




- ・将来、何になりたいか、何をしたいか、何がまちにほしいかを書いた。
- ・個人ワークでは自分の夢を好きなだけ、絵や言葉で、その説明も付け加えて表現した。

ふせん紙・グループ用紙のつかい方

- ①ピンクの紙には自分の夢をかく
- ②青い紙にはその夢をかなえるために必要なことをかく



ロボットを作る人
アイドル
ドローンでいろいろ行ける
ツリーハウスに住む
かがく研究室
大きなステージ
ドローン空港
たくさんの巨大な木



17

- ・夢の内容と必要な機能や役割、施設などを付箋紙の色別に分類整理した。

まちな名前：たとえば、〇〇なまち！ 〇〇がかなう^{かなう}自野湾市！

〇グループ みんなの夢と、夢をかなえるために必要なこと

・各グループで、個人ワークで書いた内容について共有しながら、お互いの夢と、それをかなえるために必要と考えられる施設や機能をグルーピングし表現した。

未来のまち：メキシコ（カンクーン）
スマート・フォレスト・シティ

・どんなところ？
約750万本の植物を植え、食べ物とエネルギーを完全に自給自足を目指すまちです。

33

・グループワーク前に、世界各国のまち、計画中のまちについて説明した。（既存大都市ニューヨークの中心にあるセントラルパーク、完全自給自足を目指すスマート・フォレスト・シティなど）

・いつも見ている身近な景色だけでなく、視野を広げ、未来へのイメージを豊かに描くための参考とした。

★ 普天間飛行場のあとちに、新しいまちをつくらう

今日のグループワークでまとめた、みんなの夢のまちを、グループ発表^{発表}します。

発表の仕方

- ① ●グループのまちの名前は、「■ ■」です。
- ② グループメンバーの夢は、〇〇、△△、□□がありました。
- ③ ☆☆や◇◇があれば、みんなの夢がかなうまちになると思います。

39

・グループで作成した、みんなの夢と、必要な施設や機能などの内容を整理しながら、発表の仕方^{発表}に沿って説明した。

<個別ワーク結果のカテゴリ別整理（働く・住む・遊ぶ）>

【働く】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設・インフラ
プロスポーツ・武道の道（身体能力の向上）	継続的な練習、研究、体作り、指導者の確保	各種競技場（野球、サッカー、陸上等）、屋内練習場、バッティングセンター、武道館
デジタル・クリエイティブ職（技能の習得）	プログラミング学習（練習）、配信技術、表現力の向上	ゲーム開発スタジオ、配信・編集スタジオ、プログラミング学校、アートスタジオ、図書館
食・サービス・ものづくり専門職	調理・製菓・デザインの技術習得、経営の学習	専門学校、工場（お菓子、ロボット）、キッチンカー、デザイン事務所、店舗（カフェ、服屋等）
医療・教育・公共サービスのプロ	専門知識の習得、勉強、思いやりの心	大学（医学部）、病院、学校、警察署、消防署、動物病院（森の動物園）
エンターテインメント・文化の担い手（芸能・メディアへの挑戦）	表現の練習、オーディション、感性を磨く	ステージ・ホール、音楽学校、映画制作スタジオ、モデル事務所、マンガ図書館
動物・植物に関わる仕事	飼育知識、環境保護、ボランティア精神	動物園、ペットショップ、里親保護施設、植物園、農業学校

概観

将来の職業観については、プロスポーツ選手やクリエイターが多い結果となった。また、それらに必要と考えられる専門トレーニング施設や教育機関（学校・スタジオ）等のニーズが高いことがうかがえた。

他に、将来の職業や自己実現に直結する「スキルの習得」が多い。これらを支える教育環境や、メディア・芸能に関わる機能が必要としている。

【住む（インフラ・都市環境・社会）】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設・インフラ
次世代モビリティ・インフラのある暮らし（移動手段を増やす）	ドローンの活用、自動運転、エレベーターの増設、動く道路、鉄道・新幹線の整備	ドローンポート、動く歩道、新幹線レール、専用道路、多機能エレベーター
自然・動物と共生する家	樹木の育成、水圧研究、動物の世話・教育、自然保護	ツリーハウス、海中・水上住宅、ペット共生型住宅、ドッグラン、お花畑、森

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設 ・インフラ
高機能・多様なテーマの住宅	AI技術の導入、省エネ（水利用）、高層化、特殊素材（お菓子等）の活用	AIスマートホーム、高層ホテル、プール付きアパート、お菓子の家
安全・安心・快適なまち（助け合いの社会）	交通ルールの徹底（飲酒運転・信号無視根絶）、美化活動、歴史学習、困っている人を助ける精神、防衛技術（AI）の活用	病院、消防署、交通安全施設、清掃システム、歴史資料館、AI開発拠点（武器・防衛等）、福祉支援施設
充実した商業・宿泊サービス	質の高いおもてなし、安価な供給、多種多様な店舗	大規模・多機能ホテル（温泉、水中、ペンギン等）、大型スーパー（コストコ等）、専門店街
地域のランドマーク形成	地域の象徴となるタワーの建設、観光資源の創出	ぎのわんタワー、ピラミッド・マグマ鑑賞施設

概観

居住環境については、利便性の高い都市機能と、海や森などの自然環境が調和した空間への関心が高い結果となった。また、ドローンや空飛ぶ車といった次世代モビリティを前提としたインフラへの期待が高いことがうかがえた。

他に、地域のシンボルとなる建築物や、生活を支えるモビリティ、安全で相互扶助のある社会環境についてもあげられた。

【遊ぶ】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設 ・インフラ
大規模テーマパーク・万博・体験型ゲーム・イベントへの参加	巨大な土地、魅力的なアトラクションの研究、資材確保、	沖縄万博会場、ディズニー・マリオ等のキャラクターパーク、遊園地、迷路、全力で走り、隠れる場所の確保
水遊び・海洋レジャー施設	広い敷地、安全性の確保、水質管理	流れるプール（普天間飛行場規模）、室内プール、海釣り施設、水族館、ペット用プール
自然体験・スポーツ・公園	広大な空間、道具の整備、樹木の育成	アスレチック場、キャンプ場（海の上、グランピング）、自転車専用公園、野球場
文化・エンタメ・交流施設	最新技術（4D、AR/VR等）の導入、無料開放の検討	映画館（屋外、立体型）、マンガ図書館、イベント広場、ゲームセンター、秘密基地

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設 ・インフラ
日常の楽しみ・飲食レジャー	設備の導入、コミュニティの形成	各種専門店（スイーツ、たこ焼き、恐竜文房具）、ネコ・フクロウカフェ、ひまわり園
非日常・ファンタジー体験	科学技術（水中呼吸等）の研究、多幸感のある空間づくり	水中体験施設、動物共生施設
自己超越・変身体験	身体能力の極限への挑戦（空を飛ぶ等）、動物との一体化	スカイダイビング施設、動物体験パーク

概観

遊ぶ・楽しむ・交流などを含むレジャーに関しては、「全天候型」かつ「多機能」大型施設への要望が多かった。また、公園やプールの充実に加え、映画のキャラクターやゲームの世界を実体験できる体験型エンターテインメントへの期待がうかがえた。

他に、「体験型」の遊び、空想を現実にするような大規模なテーマパークへの期待が高い。

<ワークのまとめ>

【未来のまちに期待するソフト環境】

1. デジタル・ネイティブな学習スタイル	SNS等をツールとして、公共施設における高速通信環境や動画制作・練習スペースが期待されている。
2. 身体能力の向上	「足を速くしたい」「跳び箱を飛びたい」といった身体的成長のための「全天候型のトレーニング施設」が期待されている。
3. エンタメの自分事化	番組や動画等の人気コンテンツを、見る側ではなく「体験する側・出る側」として捉え、まち全体をステージとして活用するイベントなどが期待されている。

【未来のまちに期待するハード環境】

エリア・構造など	概要	施設例
1. スカイフロント 次世代モビリティ・ハブ（空飛ぶ車やドローンを中心とした交通拠点）	都市交通拠点を構築する 【ワード】 空飛ぶ車・ドローン・宇宙・空中移動、AI住宅	・特別飛行場・ドローン発着場: 専用の飛行場、折りたたみドローン置き場 ・スカイ・ハイウェイ: ドローン専用の空の道、地上は学校まで続く動く道路 ・スペースポート: 月への移住や、宇宙飛行士の拠点となる宇宙センター、星の見えるスペースシャトル型の家

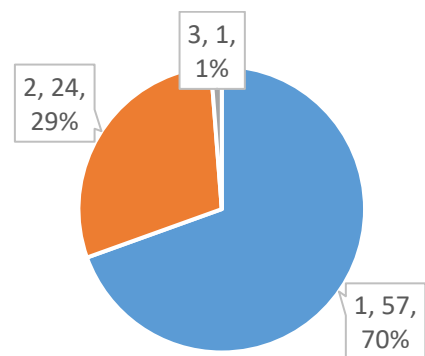
エリア・構造など	概要	施設例
2. フォレストタウン 共生型自然エンターテインメント・ゾーン (職住遊の一体化)	自然と人間が調和するエリア 【ワード】 ツリーハウス、動物共生、芸術	・ツリーハウス・ヴィレッジ: 巨大な木に作られた秘密基地、ガラス天井で星が見える木の上の家 ・アニマル・コリドー: 犬・猫カフェ、フクロウカフェ、ペンギンやクラゲのいる水中の家 ・クリエイティブ拠点: 巨大図書館、音楽学校、オーケストラが演奏できるホールを自然の中に配置 ・環境: 毎日植物に水をあげる管理システム、ハイビスカスが咲く歩道
3. オーシャンパーク メガ・アクアスタジアム (地域資源の再開発)	世界最大級のレジヤーマ・スポーツ拠点 【ワード】 巨大プール、スタジアム、お菓子の家	・超ロング流れるプール: 普天間飛行場を1周できる規模で、犬と一緒に水遊びができるエリア ・マルチ・スポーツ・コロシウム: プロ仕様のサッカースタジアム、NBA 対応コート、K-POP スタジアムを集約 ・お菓子と映画の街: チョコワールドやお菓子工場、映画のキャラクターがいる家が並ぶ、映画のような街並み

⑤アンケート結果

※回答者総数計 84 名 (大謝名小学校全 3 クラス・無回答あり)

Q1. 動画をとおして、これから「あたらしいまちをつくる」ことについて、理解できましたか？

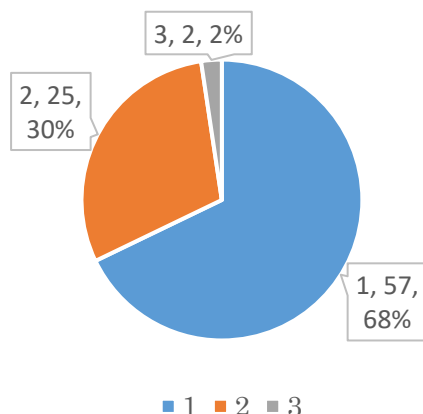
選択肢	回答数	割合
1: よくわかった	57 名	70%
2: まあまあわかった	24 名	29%
3: むずかしかった	1 名	1%
計	82 名	100%



■ 1 ■ 2 ■ 3

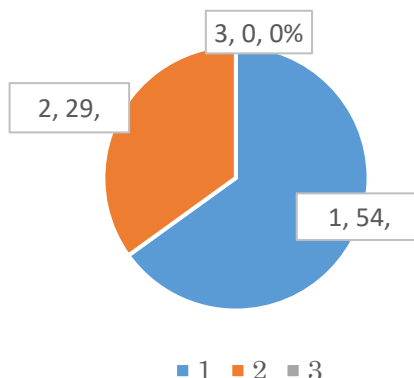
Q2. 動画やワークをとおして「あたらしいまちをつくる」ことについて、もっと知りたくなりましたか？

選択肢	回答数	割合
1：知りたくなった	57名	68%
2：少し知りたくなった	25名	30%
3：かわらない	2名	2%
計	84名	100%



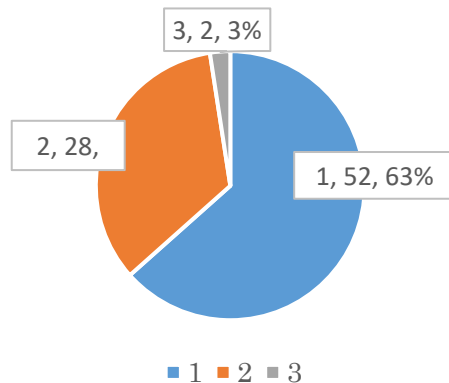
Q3. ワークをとおして、「あたらしいまちへの夢」がふくらみましたか？

選択肢	回答数	割合
1：とてもふくらんだ	54名	65%
2：少しふくらんだ	29名	35%
3：かわらない	0名	0%
計	83名	100%



Q4. 「あたらしいまち」について、これから先生や家族、友達と話したいと思いませんか？

選択肢	回答数	割合
1：話したいと思う	52名	63%
2：少し話したいと思う	28名	34%
3：話したいと思わない	2名	3%
計	82名	100%



<まとめ>

- ・ Q1で「よくわかった・まあまあわかった」と回答した生徒が約97%（81名※むずかしい3）に達しており、「都市開発」や「基地返還」が、動画やワークを通じ伝わったといえる。
- ・ Q2で「知りたくなった・少し知りたくなった」と回答した生徒が約99%（83名※かわらない1）に達しており、普天間飛行場跡地についてほとんどの生徒に興味を持ってもらえたといえる。

- ・ Q3の「とても・少し夢がふくらんだ」と回答した生徒が約99%（83名※かわらない1）となった。普天間飛行場跡地に関する知識を得たことやグループワークのプロセスが、将来のまちづくりへの想像力を豊かにするきっかけとなった。
- ・ Q4では、「話したい・少し話したい」と回答した生徒が約97%（80名※話したいと思わない3）となった。講座体験が「その場限り」でなく、他者と共有することへの意欲と捉えることができる。
- ・ Q1（理解）からQ4（対話意欲）の全質問項目で肯定的な回答が9割を超えたことは、生徒が郷土について興味を持って学んでもらう良い機会となったといえ、情報発信の拡大と醸成を目的とした今回の講座は一定の成功を得られた。

5) 志真志小学校講座内容と結果

①志真志小学校講座実施概要

実施日	時間	場所	学年	人数(名)
令和7年 11月14日 (金)	9:30-11:10 2・3校時 (90分)	志真志小学校	6年生 全4クラス	計126名 6-1: 32名 6-2: 29名 6-3: 32名 6-4: 33名

②志真志小学校講座プログラム

時間	内容
2校時 (9:30-10:15)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりワークショップの主旨説明 ・プロモーション動画鑑賞 ・3択ミニクイズ ・未来の宜野湾市の作成 グループに分かれて「将来の自分の夢」をかなえる未来の宜野湾市について各自で考える(3つのカテゴリ: 働く・住む・楽しむ)
3校時 (10:25-11:10)	<ul style="list-style-type: none"> ・未来の宜野湾市の作成 グループみんなの夢について話しながら、普天間飛行場の白地図上に夢の施設やその内容などを付箋に書いて貼ったり、直接書き込むなどして各グループの「まちを可視化(表現)」する ・グループ発表(各グループ3分×3グループ程度) ・アンケート記入



ワークショップの様子とグループワーク結果(抜粋)

③ワークのプロセス

<説明資料：ワーク箇所の抜粋>

ワーク：
オリジナルのまちを考えてみましょう。

Let's imagine!

みなさんの将来の夢と、
その夢をかなえるために
必要なことは何でしょうか？



(前半)各自のワーク 22分 9:52-10:14
(後半)グループワーク 22分 10:31-10:53



19

- ・「普天間飛行場が返還された後のまちはどうなってほしいか」を、具体的にイメージできるよう、「自分の将来の夢」という視点から考え、表現してもらうことを目的とした。


ワークでは何をする？

各自のワーク

- ① 自分の「将来の夢」と「夢をかなえるために必要なこと」を書く。
(3つの分野それぞれに記入 ※全ての分野でなくてもよい)


グループワーク

- ① 各自の夢をグループの中で紹介しながら、**グループオリジナルマップを作る。**
 - ➡ どんな夢をかなえたいか、そのために必要なことは何か話し合っ、用紙に絵や言葉を書きか、付箋に書いて貼る。
- ② どんな夢をかなえるまちになるのか、**グループ発表のための説明を考える。**
- ③ 「まちの名前」を決めて用紙に書く。
- ④ クラスのみんなに発表する。



その夢なら、
OOがないとね。

きみはどんな夢があるの？




20

- ・将来、何になりたいか、何をしたいか、何がまちにほしいかを書いた。
- ・個人ワークでは自分の夢を好きなだけ、絵や言葉で、その説明も付け加えて表現した。
- ・各グループで、個人ワークで考え、書いた内容をグループで話し合い共有しながら、普天間飛行場をベースにした白地図の上にオリジナルマップを表現した。

各自のワーク 用紙・ふせん紙の使い方

「自分の夢」と、「夢をかなえるために必要なこと」を3つのカテゴリに分けて整理する

【働く】	【住む】	【楽しむ】
<p style="font-size: small;">OOの仕事がしたい！●●になりたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン経営者 ・学校の先生 ・パティシエ ・・・など 	<p style="font-size: small;">こんな家がほしい！OOがあるまちに住みたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の上の家に住む ・ドローンで移動できる ・動物と遊べる ・・・など 	<p style="font-size: small;">OOをして楽しむまちにしたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランピングができるエリアがほしい ・外で映画を観る ・SF映画みたいなことをしたい・・・など
<p style="font-size: small;">**があれば夢の●●の仕事ができるぞ！(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オシャレなレストランを海が見える所に建てたい。 ・パン、ケーキ工場 ・自然に囲まれた校舎があるといい。 ・・・など 	<p style="font-size: small;">OOがあれば夢の家・まちができるぞ！(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カジュマルなど家を支えられそうな巨木をたくさん植える。 ・ドローン専用空の道をつくる。 ・アニマルカフェ ・・・など 	<p style="font-size: small;">OOがあれば、楽しいまちになるぞ！(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高級キャンプ広場 ・全天候型屋外スクリーンをつくる ・宇宙に行けるエレベーターをつくる ・・・など



21

- ・各自の夢は「働く」「住む」「楽しむ」の3つのカテゴリに分けた。
- ・各カテゴリに分けることで、それぞれの夢に必要な機能や役割を整理でき、より具体的に整理できた。

グループワーク 用紙・ふせん紙の使い方

「夢をかなえるために必要なこと」を話し合っ、用紙に書く(★)か、ピンク・青のふせん紙に書いて貼る。
※前半で書いた各自の夢をみんなで選んでもいいし、グループで話し合った新しい夢でもいいです。



まちの名前：例えば、まちをながめながら、好きな場所に行けるまち

● グループ

【夢の内容やマップのとくちよ】

- 野球選手
- グランピングしたい
- パティシエになる

グループオリジナルマップ作成例



【夢の内容やマップのとくちよ】

- ツリーハウスに住む
- ドローンでまち中を移動
- ドローンでまち中を移動
- 散歩コースがほしい

みんなの夢や、マップの説明を書いたり、はったり(ピンクのふせん紙)するためのスペース

みんなの夢や、マップの説明を書いたり、はったり(ピンクのふせん紙)するためのスペース

- ・付箋紙を使い分けながら目的と必要施設を書き込んだ。
- ・付箋紙で表現しづらい内容(交通動線やエリアの囲い込みなど)は直接マップに描き、具体的なイメージを展開した。

未来のまち：メキシコ (カンクーン) スマート・フォレスト・シティ

・どんなところ？

約750万本の植物を植え、食べ物とエネルギーを完全に自給自足を目指すまちです。



33

- ・グループワーク前に、世界各国のまち、計画中のまちについて説明した。(既存大都市ニューヨークの中心にあるセントラルパーク、完全自給自足を目指すスマート・フォレスト・シティなど)
- ・いつも見ている身近な景色だけでなく、視野を広げ、未来へのイメージを豊かに描くための参考とした。

★ 普天間飛行場のあとちに、新しいまちをつくらう

今日のグループワークでまとめた、みんなの夢のまちを、グループ発表します。

発表の仕方(例)

- ① ●グループのまちの名前は、「■■■」です。
- ② グループメンバーの夢には、○○、△△、□□などがありました。
- ③ ☆☆や◇◇があれば、みんなの夢がかなうまちになると思います。
- ④ ☆☆は南側、△△は中央、□□は北側で海が見える位置にしました。



45

- ・グループで作成したオリジナルマップについて、各内容を整理しながら、発表の仕方に沿って説明した。

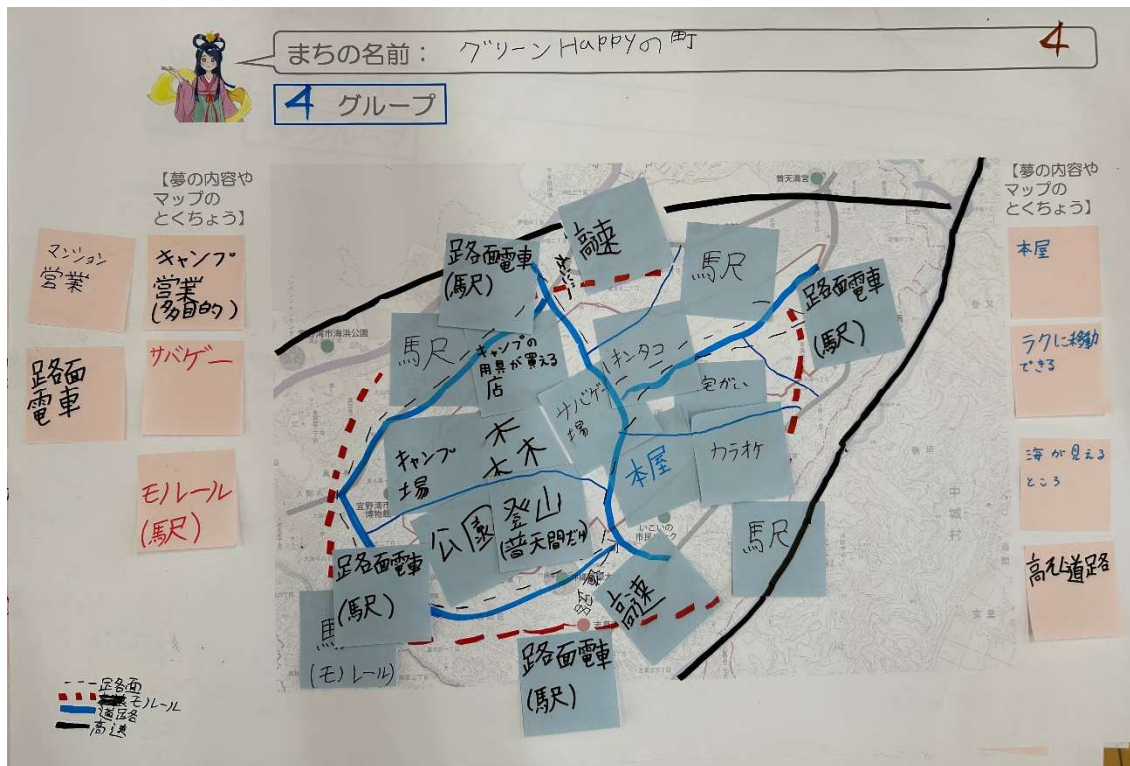
④ワーク結果

<グループワーク：作成したオリジナルマップのまちの名前>

まちのなまえ	
楽しい町	おもしろい町
観光や体験遊べるまち	ほしいものがすぐそろう！ なんでもシティ
ドリームフューチャータウン	だれでも楽しめる ハッピーシティ
桜町	日本一楽しいまち
野球場もあってコストコや 映画館もあるにぎやかなまち	けんこうづくりの町
楽しみながら安心してらせる町	夢と未来の町
いろいろなしせつがある チャンプルー・シティ	グリーン Happy の町
普天街	ATM
自然あふれるきれいな町	楽園だらけの町
あんぜんな町	楽しめる街
OFA・FAO シティ	お金まち!!!!!!
吉	夢の町

<作成されたマップ>※抜粋

【グリーン Happy の町】



<個別ワーク：カテゴリ別整理（働く・住む・遊ぶ）>

【働く】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設・インフラ
プロスポーツ・アスリート	専門的な練習環境の確保、継続的な努力・修行	スタジアム、球場、アリーナ、体育館、バッティングセンター
デジタル・クリエイティブ職	高度なITインフラ、最新機材の普及、情報集積	ゲーム開発オフィス（ゲームタワー）、インターネット通信網、PC・機材専門店、声優練習所・録音スタジオ
専門職・公共サービス	公的資格、高度な教育体制、安全な職場環境	病院、学校、警察署、消防署、美容学校、銀行、工業タワー
QOL（生活の質）を重視した職場	高賃金、短時間勤務、良好な人間関係、食事の充実	社内カフェ・食堂、託児所、昼寝スペース、リフレッシュ公園、自然に囲まれたオフィス
食・サービス・ものづくり	地産地消、起業支援、専門技能の習得、材料の安定供給	カフェ、パティスリー、パン屋（学校併設）、コストコ、ショッピングモール

概観 「多様なキャリアパスとワークライフバランス」

将来の職業観については、プロスポーツやクリエイティブ職への意欲が高い。また、「働きやすさ」や「職場環境の充実」があげられた。

【住む（インフラ・都市環境・社会）】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設・インフラ
災害に強く安全・安心なまちと家	耐震・耐風性能の向上、避難経路の確保、防犯体制の強化、渋滞のない道路網	耐震住宅、避難所、街灯、防犯カメラ、渋滞緩和のための多重道路、指紋認証・AIセキュリティ
自然と共生する緑豊かなまち	植栽の維持管理、水質の浄化、環境保護意識、土地の確保	大規模公園、街路樹、水辺空間、古民家、家庭菜園・庭
利便性の高いまち・多機能な家	自家発電、自動化技術（AI）、移動の円滑化	スマートホーム（エレベーター・サウナ・プール付）、光パネル、地室、モジュール、

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設 ・インフラ
交流と共生を育む住まい	多世代・多種（動物）との共生、コミュニティ形成	シェアハウス、ドッグラン、動物病院、水族館併設マンション、近 商業施設、古民家

概観 「安心・安全と自己実現を 立する居住環境」

居住環境については、災害への強さなどの安心感、スマート化による利便性（交通インフラ、スマートホームなど）と 時に、豊かな自然環境が められる結果となった。

【遊ぶ】

夢の内容	夢をかなえるために必要なこと	必要と考えられる施設 ・インフラ
大規模テーマパーク・レジャー施設	観光拠点の形成、広大な跡地活用、交通アクセス	遊園地（ディズニー・S 風）、観 車、水族館、大型 合商業施設、空
自然体験・アウトドア・スポーツ	森林保護、景観活用、スポーツ振興、多様な遊具設置	キャンプ場、アスレチック（天空の城等）、ジップライン、釣り場、巨大迷路、大型公園（セントラルパーク風）
次世代型エンタメ・交流	ロボット技術、ドローンの活用、多様な文化への理解	ロボット交流広場、eスポーツ施設、ドローン乗り場、映画館、多言語対応の交流センター
リフレッシュ・癒し・コミュニティ	ストレス解消、地域交流、動物との触れ合い	温泉、アニマルカフェ、防音室（叫ぶ用）、駄菓子屋、祭り会場、イベント広場

概観 「五感を刺激するエンターテインメントと交流の場」

遊ぶ・楽しむ・交流などを含むレジャーに関しては、大規模テーマパークの期待と、日常的なリラックス空間（温泉・公園）、最新技術（AI・ロボット）を合わせた新しい体験が められる結果となった。また、動物とのふれあいや自然の中でのアクティビティが められている。

<ワークのまとめ>

【未来のまちに期待するポイント】

1. 南北の軸（交通）	地区を縦断するようにモ レールまたは次世代交通（自動走行バス等）を配置し、「手軽にどこでも行ける」 仕組み
2. 職住近接の実現	住宅（スマートマンション）の近くにオフィスや商業施設を配置し、移動時間を短縮して「家族や友達と遊ぶ時間」を最大化
3. ユニバーサルデザイン	すべての施設を「人間にも動物にも優しい」 設計とし、エスカレーターやエレベーターを完備したバリアフリーなまち

【未来のまちに期待するハード環境】

エリア・構造など	概要	施設例
1. 北側 アクティブゾーン	スポーツと IT の融合、 若者・観光客の拠点	タワー、全天候型アリーナ・競技場、 e スポーツアリーナ・ゲーム開発オフィス、商業施設
2. 中央 ネイチャーゾーン	まちの中心となる緑 地、災害時の利用	セントラルパーク、動物広場、ドッグラン
3. 南側 ライフゾーン	モ レールの延伸、買 物・住居が一体化	モールステーション、スマート住宅、 ドローン発着ポート、モ レール延伸、バスターミナル、歩く歩道

<まとめ>

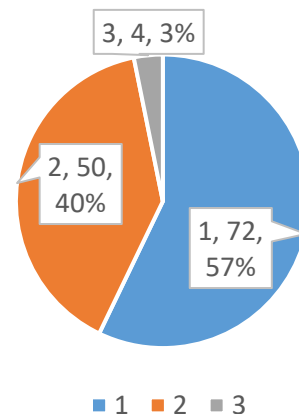
- ・ 「自然豊かなまち」と「都会的で便利な機能」、「最新テクノロジー」と「良好な労働環境」のバランスは、次世代の都市開発に重要な視点と考えられる。
- ・ これらを具現化するには、単一の施設でなく、「多目的・多機能を備えたインフラ整備」（例：防災拠点となる公園、教育機能を持つ商業施設）など、エリア全体の効率的な役割と配置が必要となる。
- ・ ワークショップから、子どもたちが単に「希望を満たす施設」だけでなく、「災害への備え」や「自然との共生」、「働きやすさ」といった、現実的かつ持続可能な都市の姿もイメージしていることが見受けられた。

⑤アンケート結果

※回答者総数計 126 名（志真志小学校全 4 クラス）

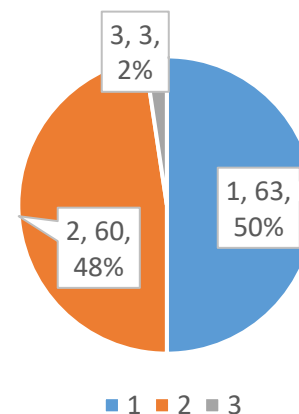
Q1. 動画をとおして、これから「あたらしいまちをつくる」ことについて、理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
1：よくわかった	72 名	57%
2：まあまあわかった	50 名	40%
3：むずかしかった	4 名	3%
計	126 名	100%



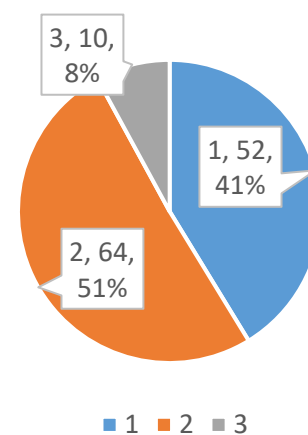
Q2. 動画やワークをとおして「あたらしいまちをつくる」ことについて、もっと知りたくなりましたか？

選択肢	回答数	割合
1：知りたくなった	63 名	50%
2：少し知りたくなった	60 名	48%
3：かわらない	3 名	2%
計	126 名	100%



Q3. 「あたらしいまち」について、これから先生や家族、友達と話したいと思いますか？

選択肢	回答数	割合
1：話したいと思う	52 名	41%
2：少し話したいと思う	64 名	51%
3：話したいと思わない	10 名	8%
計	126 名	100%



Q4. 動画をとおして「一番印象に残ったこと」は何ですか？（記述式）

<回答の整理>

- ・ 回答は概ね「現状と歴史による驚き」「世界の事例への興味」「未来の可能性」「共感」の4つに分類された。

分類	回答概要
現状と歴史による驚き	・ 普天間飛行場の規模、かつての景観 ・ 戦前かつてあった自然（じのーん若松）
世界の事例に対する興味	・ サウジアラビアの計画、韓国の海に浮かぶ街 ・ 空飛ぶ車や最新技術、緑との組み合わせ
未来の可能性	・ 実現への希望 ・ 遠い未来でないかもしれないという期待
共感	・ 友達の夢を知って嬉しい ・ グループでまちをつくったことが面白い

Q5. ワークをとおして、あなたが宜野湾市で「一番かなえたいこと」は何ですか？（記述式）

<回答の整理>

- ・ 回答は概ね「エンターテインメントや商業施設の充実」「交通インフラ」「自然と安全が守られた環境」「スポーツと個人の夢」の4つに分類された。

分類	回答概要
エンターテインメントや商業施設の充実	日常を楽しくする施設 ・ 大型施設（ショッピングモール、テーマパーク） ・ 遊び場（ゲームセンター、アスレチック施設、動物と触れ合える公園）
交通インフラ	移動の利便性向上 ・ 鉄道・モ レール ・ 次世代交通（空飛ぶ車）
自然と安全が守られる環境	・ 緑いっぱいの公園、キャンプ場、海を守る ・ 事件・犯罪がない、耐震性のある家、誰でも住めるまち
スポーツと個人の夢	・ スタジアム（プロ選手になるために必要な学校、各施設）

<まとめ>

- ・ Q1で「よくわかった・まあまあわかった」と回答した生徒が約97%（122名※むずかしい4名）に達しており、「都市開発」や「基地返還」が、動画やワークを通じ伝わったといえる。

- ・ Q2で「知りたくなった・少し知りたくなった」と回答した生徒が約98%（123名※わからない3名）に達しており、普天間飛行場についてほとんどの生徒に興味を持ってもらえたといえる。
- ・ Q3では、「話したい・少し話したい」と回答した生徒が約92%（116名※話したいと思わない10名）となった。講座体験が「その場限り」でなく、「今後の展開」として、友達や家族と普天間飛行場や宜野湾市の現状などについて共有することへの意欲と捉えることができる。
- ・ Q1（理解）からQ3（対話意欲）の全質問項目で肯定的な回答が9割を超えたことは、生徒が郷土について興味を持って学んでもらう良い機会となったといえ、情報発信の拡大と醸成を目的とした今回の講座は一定の成功を得られた。

6) 講座先各小学校担任へのアンケート結果

※回答者総数計3名（大謝名小学校（代表1名）・志真志小学校（2名）

<質問内容・回答結果>

質問内容	選択肢	回答数
Q1. 普天間飛行場跡地利用計画の説明（動画）は児童・生徒にとって適切でしたか？	1. 物足りない 2. 適切 3. 難しい	0 3 0
Q2. ワークの内容はいかがでしたか？	1. もっと簡単なゴール設定が良い 2. 適切 3. もっと踏み込んだゴール設定が良い	1 1 1
Q3. ワークの内容について、具体的な改善点があれば教えてくださいませんか。 【記述回答まとめ】 ・発表時どう発表するのか、事例を出しても良いと思う。 ・6年生の場合、福祉であればどんなものがあればよいか、商業施設・運動施設はどのようなものがよいか、公共施設としてはどのようなものがあれば暮らしが豊かになるかなど、もっと踏み込んだ学習視点を持たせると良い。		
Q4. 今後このような出前講座をすることについてどう思いますか。	1. 活用したい 2. 別の形が良い 3. 時間の確保が難しい	2 0 1
Q5. 今回の出前講座について、率直なご感想などをいただけますでしょうか。 【記述回答まとめ】 ・自分たちの市の将来を考える良い機会になった。中学生で実施などがあると成長した視点で自分たちの市について考えられそうで意義がある。 ・3年生の社会では2月ごろに図工「粘土でマイタウン～未来の町～」があるのでその時期であればもっと身近に感じただろう。		

<まとめ>

- ・ 普天間飛行場跡地利用計画の説明については適切だったと回答いただいた。
- ・ 各ワークの内容については、各選択肢「もっと簡単なゴール設定が良い・適切・もっと踏み込んだゴール設定が良い」に分かれたことから、今後の実施ではゴール設定について更に検討する必要がある。
- ・ ワーク内容の改善点については、発表のためのアウトプットの事例の説明をもっと丁寧にすることや、各学年の生徒の理解に応じた視点を提供することで、より真剣に考えられるだろうとの意見をいただいた。
- ・ 今後の出前講座の活用については、「関連学習の時期も踏まえ、実施のタイミング等について考慮する必要がある。
- ・ 総評として、「生徒たちが自分の住む宜野湾市の将来を考える良い機会となった」「中学生になってから成長した視点で自分たちの市について考えられそうで意義がありそうだ」とのご意見をいただいた。各成長過程での知識や理解を踏まえながら普天間飛行場跡地利用に対する考え方の経緯などを追えると、より認識が深まり、自分事として将来の宜野湾市の具現化に繋がるものと考えられる。

7) 取組み成果と課題

【取組み成果】

● 普天間飛行場跡地に関する興味・関心を高める取組みの効果

- ・ 小学校3年生および6年生の児童に対し出前講座を開催し、昨年度に引き続き、宜野湾市の歴史や文化資源、および普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組内容をまとめたPVを活用し、学ぶ機会を設けることで、跡地利用に関する周知と理解を深め、興味・関心を高めることができた。
- ・ 講座体験が「その場限り」でなく「その後の展開」として、友達や家族と共有することへの意欲につながったことで、周知先が広がり、より多くの市民への興味・関心の喚起が期待される。
- ・ 普天間飛行場跡地に関する知識を得たことやグループワークのプロセスが、将来のまちづくりへの想像力を豊かにするきっかけとなった。
- ・ 未来のまちづくりの中心的役割を担うと考えられる市内の児童・生徒が「各自の将来の夢と宜野湾市のみらいのまち」を視点に、普天間飛行場について、より「自分事」として認識し、共に考える機会となった。

● 学校とのつながりの形成

- ・ 学校側から高い評価を得た。（「生徒たちが自分の住む宜野湾市の将来を考える良い機会となった」「中学生になって成長した視点で自分たちの市について考えられそうで意義がありそうだ」とのご意見）

【今後の課題】

●テーマ等の設定について

- ・ 開催先先生方から、各講座の目的や関連資料・教材については、各学年の該当科目（社会科等）における学習目標やねらい等と関連付け、ゴール設定を更に明確にすることで、各学年の成長過程（理解度）のなかで、児童がより真剣に考えることができるのご意見をいただいた。
- ・ 児童の発達段階や学習状況を踏まえながら、普天間飛行場跡地利用に対する考え方の経緯などを追えば、より理解・認識が深まり、自分事として将来の宜野湾市の具現化につながるものと考えられる。

●参加呼びかけについて

- ・ 今回は各学校への周知・調整期間が短く、開催時期等の不都合などがあったため、機会損失を防ぎ、今後も継続的に出前講座を実施していくには、開催学年の関連学習時期も踏まえた実施のタイミング等について考慮する必要がある。